

「楓葉町復興計画〈第二次〉」パブリックコメント募集に寄せられたご意見とその対応

注) 個人情報保護等の観点から、地名など一部を伏字（＊＊）としました。

1	復興計画について	<p>復興計画についてですが、まず、町民の再建を最優先として建物等の補償が全額貰えるまでの期間は帰還しないと言う決議をすべきだと思います。現在の仮置場が点在する町に住もうという気持ちにはなれません。</p> <p>帰還するためには、家屋の修理、建て替えが必要ですが、楓葉町の場合は全額補償となっていません。これは来年春に判断ですという発言があるからです。</p> <p>町としては全額補償となるまでの期間は帰還しないということを決めるべきだと思います。家屋の修理のめどが立たない限り帰ろうとは考えられません。</p> <p>その間にインフラ整備が終わった地区は宿泊を許可する等の措置を講じれば良いと思います。</p> <p>事故から6年をインフラ整備期間として、除染作業の実施、上下水道の整備を優先して行う。また、農業再生のために農地の定期的な除染を行いながら、稲作以外の完全工場型のハウスでの農作物や花卉栽培等を検討すべきだと思います。</p> <p>町民が帰りたい、住みたいと思う環境を整備すること。建物等の補償が全額貰えるための決議をすることが第一ではないでしょうか。広野町では、除染作業の人が多く宿泊していることが町民が帰らない原因にもなっています。若い人が安心して住める町に戻す。</p> <p>住民が帰る前に、医療機関やスパーなどの生活に必要なインフラを揃えることを先に行い、準備が出来てから町民に帰還してもらう。</p> <p>豊かな自然で今までどおりに生活出来るのかを心配している人が多いと思います。第一発電所の廃炉作業が進んでいますが、今までとは違い放射能は拡散し続けているのも現実です。</p> <p>仮置場、中間貯蔵施設、廃炉作業という帰りたく無くなる条件が多い中で、住みたいと思う環境を整備すること難しいとは思います。が、何も整備されないとろに帰れというのは無謀だと思います。</p> <p>二度と帰らない、数年は帰らないという選択があっても良いではありませんか。</p> <p>思い付くまま意見を言わせて頂きました。まとまりのない意見で申し訳ありません。</p>	<p>町は損害賠償に関する要望の意見集約に取り組む[第三章1-4)(3)(2)]ほか、住宅の再建・修理に向けた経済的支援[第三章2-3)(2)]や、被災者カルテをもとに生活再開に向けた情報提供・相談対応に取り組みます。[第三章1-3)(1)(4)]</p> <p>損害賠償は区域指定解除後の打ち切りが懸念事項となっており、町は、財物補償も含め、国に強く要望していきます。</p> <p>宿泊の許可については、インフラ整備や除染後にしっかりとモニタリングを行い、評価を行った上で判断を行います。</p> <p>町のインフラ（道路・鉄道・ライフルイン[上下水道・電力・ガス・通信等]）については、基本的に本格復興期が始まる平成26年春を目指した復旧を行ってまいります[第三章2-2)(1)～(3)]。また、農業再生については、農業復興組合を組織化して推進します[第三章4-3)(3)]。</p> <p>町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導するほか、医療についても、介護福祉も含め先進的な地域医療の確立を目指します。[第三章3-3)(1)～(2)]</p> <p>町は帰町期の起点として、現在、国が計画している除染作業の完了が見込まれる平成26年4月を目指に、様々な観点から総合的に帰町判断を行います。</p> <p>帰町の判断時には、町政懇談会等で町民の意見をしっかりと聴きながら、判断を行います。</p>
2	60代 第2章 復興の進め方	<p>放射能汚染の経験地、チェルノブイリ原発の30km圏以遠地の汚染値で、0.6マイクロシーベルト以上の地で、健康被害が深刻になり、事故から5年後に約30万人が避難したそうです。それなのに楓葉町は、5年後になる前に全町で帰ると言うのですか。</p> <p>町目標の年1mSv以下は絶対無理です。町はそれでも帰町宣言する事になるのでしょうか。第1原発は、いつどうなるか、まったく分かりません。又避難する事はないと誰が言うのですか。</p> <p>この事を検討している人は、町職員、町長、議員の人達でしょう。政府の役人、東電の社員、そういう人と連日の様に会って、その人達と同じ目線で町民をリードする事になってしまふのでしょうか？まるで操縦かんのない舟になっているのではないですか。ただひたすら戻る、という舟の様に。</p> <p>冷静に、自分達だけの頭で考える事は無理でしょうか？</p> <p>放射能をひたすら減らして、とりあえず0.23マイクロシーベルト以下になるまで待てませんでしょうか。何回でも除染（移染でも）して。それから判断する事は出来ませんか？恐ろしい結果にならない事を祈るばかりです。</p>	<p>町は平成26年春に「帰町の判断」を行いますが、それぞれの町民の事情を尊重し、一律で帰町の強制は行いません。[第三章2-3)(1)～(4)]</p> <p>復興計画では、現在の国の除染計画に基づいて年間追加被ばく線量1mSvを長期目標と記載しています。今後、国に要請している1mSvの科学的根拠の結果を踏まえつつ、段階的な目標数値ということも想定し、町民の皆さんと相談しつつ、帰町を考えていきますが、現状の国の除染実施計画を前提に、復興計画〈第二次〉としては、同じ数字を使用します。</p>

3	70代	除染	<p>宅地周囲の除染（形式的ではだめ）が完全でなければ、子供を持つ親達は帰って来ません。</p> <p>一にも二にも完全な除染が最優先です。いくら設備・インフラが整っても放射能のある所に帰る事は出来ません。線量に対する意識が慢性化して、国や県の考えに染まっていく恐怖を覚えます。</p>	<p>町の除染は基本的に国の責任で行われますが、町としても本当に安心して暮らせる環境を取り戻すため、町独自で策定する除染計画をもとに、学校等の重点除染や除染の長期目標の達成などを要請していきます。[第三章 2-1)(1)~(2)]</p>
4	70代	除染作業は終了したようですが	<p>除染作業は終ったようだが測定して見ると数値が下がっていないようです。高い所で1マイクロシーベルト有るようです。これは檜葉町北端で（地表で）だけだと思います。（松ヶ岡、上繁岡、繁岡、下繁岡等です）帰ることはおそらく思います。低くなつてから帰りたいと思います。</p>	<p>町の除染は基本的に国の責任で行われますが、町としても本当に安心して暮らせる環境を取り戻すため、町独自で策定する除染計画をもとに、学校等の重点除染や除染の長期目標の達成などを要請していきます。[第三章 2-1)(1)~(2)]</p>
5	70代	放射能、放射線対策について	<p>特に除染について今でも手ぬき及びごまかしがあるのではないかとまったく信用できない。役所の皆様には確実な監視をお願いしたい。</p> <p>現在、放射能廃棄物は町にのざらしになっていますがその廃棄物の集積所の一時貯蔵庫が町に出来るのか？又出来るのなら大きさの規模はどのくらいなのか、まったく町からの説明がないのですが本当に町に出来るのですか？</p> <p>乳児、幼児、小学生、中学生、高等生が町に帰町してもらうには一番大切な事だと思います。ぜひ説明をしていただきたい。</p> <p>私は老人ですがぜひ説明をききたいのです。</p>	<p>ご意見を反映し、町として行う「除染作業の監視」を取組項目として新たに記載しました。[第三章 2-1)(1)②]</p> <p>放射性廃棄物の保管について、現在農地を仮置き場として用いている状況の解消を目的に、町は『保管庫』として以下の条件で国と調整の上、環境省の調査を受け入れています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物 1kgあたり 10 万ベクレルを上回らないこと。 ・廃棄物の受入は、基本的に町内で発生したもののみ。 <p>また、町民への説明についても、国（環境省）に対し丁寧に行いうよう求めていきます。</p>
6	50代	復興の進め方	<p>①除染をスピードアップしてほしい。除染を2度、3度してほしい</p> <p>②インフラ、病院、スパー等が町内にないともどれないと思う</p> <p>③仕事がない事</p> <p>④平成 26 年度 4 月に町に役場がもどっても町民は帰れないと思う。例として広野町、川内村、2割弱しかもどっていない現状を考えて欲しい。問題はどこにあるか行政が考えてほしい？</p>	<p>町の除染は基本的に国の責任で行われますが、町としても本当に安心して暮らせる環境を取り戻すため、町独自で策定する除染計画をもとに、学校等の重点除染や除染の長期目標の達成などを要請していきます。[第三章 2-1)(1)~(2)]</p> <p>町のインフラ（道路・鉄道・ライフライン[上下水道・電力・ガス・通信等]）については、基本的に本格復興期が始まる平成 26 年春を目指した復旧を行ってまいります。[第三章 2-2)(1)~(3)]</p> <p>町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導するほか、医療についても、介護福祉も含め先進的な地域医療の確立を目指します。[第三章 3-3)(1)~(2)]</p> <p>安定した暮らしを取り戻すため、町は失業・休業者への就労支援や雇用の場の創出などを通じ、安定した暮らしのための雇用や収入の確保に努めます。[第三章 2-6)]</p> <p>特に、中核プロジェクトとして検討を行っているまちづくり会社の設立、モックアップ施設の誘致をはじめとする新たな産業の誘致・集積などにより、今後の雇用創出に結び付けていきます。</p> <p>町は各町民の事情に応じ、帰町期を設けて段階的な帰町を行うほか [第三章 2-3)]、帰町に向けて問題点を整理して、帰町計画を策定します。</p>
7	70代	⑤帰還意向 ・インフラの整備 ・除染 ・医療機関 ・商業、等 1日も早い事を祈っています。	<p>出来れば、明日にでも帰り度いです。（我慢も限界です）とにかく、戻れる人から戻して下さい。1歩踏み出さなければ、何も始まりません。決断をよろしくお願いします。</p> <p>遅くとも今年中には帰りたい。！！</p>	<p>町は各町民の事情に応じ、帰町期を設けて段階的な帰町を行うほか [第三章 2-3)]、帰町に向けて帰町計画を策定します。</p> <p>町は帰町期の起点として、現在、国が計画している除染作業の完了が見込まれる平成 26 年 4 月を目途に、帰町判断を行います。</p>
8	70代		遠くはなれているため、少々の情報もほしい	町の情報については、今年の 4 月に配付した「タブレット端末」などを用いながら、きめ細かく情報発信を行います。[第三章 1-4)(1)②]
9	70代		<p>早速意見にて失礼致します</p> <p>檜葉町の復興計画二次案は良く出来ております。</p> <p>町民意見についてのべさせていただきます。</p> <p>大量にわたる内容について意見は無理であり意見する私にはレベルが高いので無理です。わかった時点で間に合う時にのべさせていただきます。可能なかぎり具体化表現で御願い致します。</p>	計画の表現につきましては、どなたにも理解していただけるよう、できるかぎり分かりやすい表現に努めます。

10	70代	楢葉町帰還時期	<p>アンケートを見てもわかるように若い方の半数以上が町に戻らないと回答している。若い方が今後、不安にならぬように町長は簡単に帰還を促したり、東電や国に対して返答してはいけないと思う。</p> <p>広野や川内の方々は、首長が解除宣言を早めたために町民は保障もなくなり、大変困っているときいている。東電の状況は、三大阶段で安心できるものではなくきちんと燃料を取り出すまでは、20キロ圏内は帰ってはいけない。年よりだけの町に未来はない。富岡のように、町民が安心するように宣言してほしい。楢葉町は、まだまだ帰れないと思う。</p>	<p>町は各町民の事情に応じ、帰町期を設けて段階的な帰町を行なうほか【第三章 2-3】、帰町に向けて帰町計画を策定します。</p> <p>町は帰町期の起点として、現在、国が計画している除染作業の完了が見込まれる平成26年4月を目途に、帰町判断を行います。</p>
11	70代	楢葉町の再生（元の町）は皆無に等しい。	<p>私達夫婦は若い人と一緒に生活が成りたたない。</p> <p>若い人は楢葉町では将来に希望が持てないので居住出来ない。</p> <p>第一に町民の減少はさけられない。</p> <p>今の高齢者5年経過したら何%減少するか。若い人が居ない所で人口の増加はありえない。消費する若い世代が居なければ商店が成り立たない。それによって町政は成り立たない。</p> <p>他、色々な問題をかかえて居る楢葉町の再生（元の町）は皆無に等しい。町民、県民、他県の方々、山、海、川どれを取っても心配で近寄らないでしょう。決して風評でも無い現実です。</p>	<p>町では、「広域的連携による豊かな教育環境の充実」【第三章 3-1】、「福祉施策と子育て環境の充実」【第三章 3-2】を通じて、若者世代にとっての暮らしやすさも追及します。また、新たな街並み形成ゾーンにおいて、新たな産業に従事する従業員・研究者などや、双葉郡内他町村などしばらく元の場所へ戻ることができない区域から長期避難される方々の受け皿を整備するなどして【第二章 2-2】(1)②]、人口増に努めます。</p>
12	70代		<p>北田地区はまだ除染もして無いので除染してもどの位放射能が下るかわからない今所は放射能が0.5位の放射線が有り又原発では大変トラブルが有り安心しては帰町は出来ないと思います。未だ3-4年は帰町は早いと思います。</p>	<p>町の除染は基本的に国の責任で行われますが、町としても本当に安心して暮らせる環境を取り戻すため、町独自で策定する除染計画をもとに、学校等の重点除染や除染の長期目標の達成などを要請していきます。【第三章 2-1】(1)～(2)</p> <p>町は帰町期の起点として、現在、国が計画している除染作業の完了が見込まれる平成26年4月を目途に、帰町判断を行います。</p>
13	60代	2- (2) 交通・原子力防災基盤の充実①	<p>新たな街並み形成ゾーンを造るならばその近くに新しいJR駅「楢葉」を造ってはどうか（当然木戸駅・竜田駅は閉鎖）</p> <p>そうすれば新街並みゾーンはより充実した地勢になりそうですが？</p>	<p>竜田駅は新たな街並み形成ゾーンの近傍に位置していることから、これらを一体的に捉えて開発を進めていきます。一方、木戸駅については、多機能拠点整備を行うJヴィレッジとの連携を念頭にした計画づくりを行います。このように2つの駅にそれぞれの役割を持たせることで、町全体としての交通の便を確保していきます。</p>
	p.9 第三章復興のための施策 3.暮らしやすさを追求	・双葉郡の未来をになう子供たちのために現状を考えると楢葉町に高校を建設し、楢葉中からの一貫校ではなくもっと大きなワクの中で「総合高校」（今までにない課程）を新設させて欲しい。		今後、高校誘致・中高一貫校化などの検討の中で、いただいたご意見を参考とさせていただきます。【第二章 2-2】(3)
	※該当外で	川内村支援だけではないが、川内-楢葉-いわきを結ぶ道路整備にも目を向けて欲しい。		「災害に強いまちづくり」の一環として、広域的避難ルートの確保のため、ハシゴ状の道路整備を基本とした道路の多重化を進めていきます。【第三章 5-2】(1) ご指摘の道路整備についても、その一環として今後検討します。
14	70代	・医療について	・病院に行くのに、交通の便がないので、町で、コミュニティバスの利用を考えてほしい。（買い物も同じだと思います。）	ご指摘を受け、町内におけるコミュニティバス等の運行について、新たに設けた取組項目「鉄道・道路の連携による町内・郡内交通の充実」の中で記載しました。【第三章 2-2】(1)③]
	・観光の再生と健康福祉の集積	・ふるさと楢葉の原風景を確実に再生して県内・外からも安心して、観光客が出入り出来るようにしてほしい。		天神岬や木戸ダム、木戸川などは楢葉を象徴する原風景であり、大切な観光資源でもあるため、これらを再生し、将来的世代に伝えます。【第三章 2-2】(3)②]
15	20代		富岡町の男性と結婚しましたので旦那の方針に従っております。当分は東京に居ると思います。0才の子供がいるので楢葉、富岡には戻らないと考えております。	町は、帰町を見合わせる方々に対しても、ふるさと情報の発信や町外の町民が集まる機会づくりなど、町の復興の状況をお伝えする機会を提供して参ります。【第三章 1-4】(1)
16	70代		帰りたいのですが、家のゆかとか戸が開かないので、がっかりしています。廊下のガラス割られて、盗難にあってこまっています。	町は、帰町時における住まいの確保について、様々な対策を行います。【第三章 2-3】(2)
17	50代	1 時期区分	<p>帰町について、ですが、26年度となってますが、川内や広野など、帰町しましたが、町民は、まだ帰らず、第一原発もまだ、何が起きるかわかりません。</p> <p>町長は、みんなの意見を聞いて26年は、早すぎると思います。子供たちの事をよく考えてほしいです。私たち年をとっているので、家族がそろっていなければ不安です。</p> <p>町長さん、いそいで決断しないで下さい。</p>	町は帰町期の起点として、現在、国が計画している除染作業の完了が見込まれる平成26年4月を目途に、様々な観点から総合的に帰町判断を行います。帰町の判断時には、町政懇談会等で町民の意見をしっかりと聴きながら、判断を行います。

18	70代	復興の進め方	目に見えるインフラの復旧に期待する。	インフラについては、帰町期を差し、復旧を進めていきます。[第三章 2-2) (1)]
19	70代	第二章 2- (2) -③	・原発事故の終息までは、今後4~50年以上かかる。その研究機関を楢葉町に誘致し、その研究者を町内に居住させろ。そうすれば年収800万円の研究者が100名済めば、1人20~30万の税収が町に入り、その他の買い物などで、町の収入は、大きく増大する。 機材や車輌でなく、人を集め、住まわせる工夫をせよ。	研究者などの居住に向けた受け皿づくりについては、放射線・被ばく医療研究者等を招聘する取り組みの一環として住居の提供などを通じ、人を集め、居住していただくことを検討します。[第三章 3-3) (2)③]
		2- (3) -①	・Jヴィレッジは、原発事故の最前線基地として、全国民の脳裏に刻み込まれている。スポーツ施設を整えても、遠くからわざわざやって来てサッカーをする物好きは殆どいないであろう。 除染が完了し、帰還が始まても少子高齢化の社会が続く。高齢者的心配は、脳疾患、心臓疾患、ガンの三大疾患に対応できる病院だ。それに原発の撤去には40~50年の間、毎日何千人の人々に働いてもらわなければならない。帰還する避難民と原発労働者のために、国立又は県立の総合病院を造らせるべきだ。会津には県立福島医大の分院高田と宮下の2カ所に県立病院がある。会津に出来て、浜通りに出来ないと云う理屈はないだろう。	町は、崩壊した地域医療を再構築し、安心して健康に過ごせる環境を整備するため、他の医療機関等との連携強化や救急・二次医療施設の誘致に取り組みます。[第二章 3-1) (2)①]
		2- (5) -①②	・「ネズミにかじられて電気が止まった」「放射能測定器が機能しなかった」「汚染水がもれた」などのニュースが流れる度に100K離れた福島市の桃やリンゴの売行きが、ガクンと落ちる。楢葉の農業の復興のためには、完全な除染と原発に小さな事故も起こさせないことだ。	町の除染は基本的に国の責任で行われますが、町としても本当に安心して暮らせる環境を取り戻すため、町独自で策定する除染計画をもとに、学校等の重点除染や除染の長期目標の達成などを要請していきます。[第三章 2-1)(1)~(2)] 原発の事故については、事業者に申し入れるとともに、国にもその対応を要請します。
			・また、農業従事者は高齢化している。荒れ果てた農地を耕し復興させるのは個人では無理だ。各方で毎に農業法人などを立ち上げる必要があるだろう。そして稲作中心の農業ではなく、多品種栽培の農業に切り替えなければならない。その際留意しなければならないことは、よそで作っていて売れているからではなく、よそで作っていないもので、売れる物を考える必要があるだろう。	農地については、廃業による耕作放棄地や津波被災地の農地の集約化を行うとともに、新しい農業に取り組む中で農業復興組合を組織化し、農業者の意向を尊重しながら計画的に進めていくこととします。[第三章 4-3)(3)]
		2- (3) -③	原発事故で双葉郡内の高校は全部撤去し、県内のあちこちの高校に間借りして授業をしている。郡内の高校所在地はいずれも放射能が高い所ばかりで相当期間復旧するのは無理思われる。幸い楢葉町は放射能が低く、町民運動場という広い場所がある。双葉郡の高校生の受け入れ場所をここに設置してはどうか、そして、いわき市内や広野、町内からスクールバスで送迎するようにしてはどうだろうか。原発を設置、誘致した国や県もそのぐらいの責任を負う必要があるだろ。	今後、高校誘致・中高一貫校化などの検討の中で、いただいたご意見を参考とさせていただきます。[第二章 2-2)(3)]
		第三章 1- (1)	人間には、帰巣本能と云うものがある。双葉郡の郡民がいわき市に集中しているのは、それによるものだ。いわき市はパンク寸前だ。除染が終わり、安全が確立されたら、楢葉、広野両町は双葉郡民の受け入れ地となり、人口を増やしていくなければ、町政はやって行けなくなる。また、東電や誘致企業の社員たちを楢葉に居住させ、町民税を支払ってもらわなければ、町の財政は豊かにならない。企業の誘致だけでは食い逃げに会ったようになる。社員の定住を考えるべきだ。	新たな街並み形成ゾーンにおいて、新たな産業に従事する従業員・研究者などや、双葉郡内他町村などしばらく元の場所へ戻ることができない区域から長期避難される方々の受け皿も整備していきます。[第二章 2-2)(1)②] 研究者などの居住に向けた受け皿づくりについては、放射線・被ばく医療研究者等を招聘する取り組みの一環として住居の提供などを通じ、人を集め、居住していただくことを検討します。[第三章 3-3) (2)③]

	第二章 2- (3) ③	各町村の世論調査などを見ると若い人たちの帰還希望者が非常に少ない、従って楳葉の学齢人口も相当減る筈だ。南小は耐震設計だが、北小はくなっている。将来も楳葉の小学校の各学年の児童数は2学級 80名をこえることはないと思うので、南小にスクールバスで児童を送迎した方が相当の経費の削減になる筈だ。中学校は地震で破損した場所も相当ある筈なので、新築せざるを得ないだろうが、計画を学年2学級、予備教室一室で見直したらどうか。中・高一貫教育と云う考えもあるようだが、それは無理ではないか。高校を町費で運営する財政的余裕があるのか。中学校も県立にした場合は入学試験を実施することになる。テストで落ちた中学生をどこに収容するか……いろいろ研究の必要があるだろう。	小学校については、2つある小学校の統合も視野に入れた検討を行う中で、具体化を行います。[第三章 3-1] (1)~(2)] また、今後、高校誘致・中高一貫校化などの検討の中で、いただいたご意見を参考とさせていただきます。[第二章 2-2)(3)]	
20	50代	1.復興計画〈第二次〉(案)の方向性 2.除染 3.産業等の再生	昨年12月13日までに実施の楳葉町住民意向調査で明らかになつた町民の要望が、相応する形で復興課題として盛り込まれており、この内容に従って着実な成果を上げることを望みます。 町民の意向からしても最上位の優先順位にあり、最大の課題は、除染及び除染関連事業です。 既に指摘される様に、除染の安全かつ速やかな実施のためには、現時点で考え得る最良の保管施設の早急な建設が不可欠です。 この際、町内の放射性除染廃棄物を他自治体に受け入れてもらおうなどという実現不可能な妄想は捨て去り、自らの町のものは町内で処分する覚悟をし、その意識に立って、対処を開始する必要があります。 いずれ町内から搬出するからとして、家屋周辺や一時保管場所及至中間貯蔵施設に除染廃棄物を置くことは、科学的対処の欠落した気分的な気休めに過ぎず、町外搬出までの長い年月に亘り、被曝線量を日々上積みすることになる非常に危険な選択です。 名称は最終処分場と名付けられるものであろうとも、とにかく仮ではなく長期に亘り堅牢で恒久的な保管施設を建設し、放射線レベルの高低にかかわらず、除染廃棄物を保管すべきと考えます。 ①次世代農業従事者育成のための具体的施策の策定。 ②農作物収入が家計の主な収入源になり得る様な生産方法・生産品の開発。 消費者にとって価値あるもの、良いものは割り高でも売れる市場があるので、他産地、他産物との差別化、突出した特性をもつ産物の開発などを行う主体の設置。	町はこの計画の推進により、災害を克服し、これまで以上に健康で心豊かに暮らせる、すばらしいふるさとを作り上げていきます。 放射性廃棄物の保管について、現在農地を仮置き場として用いている状況の解消を目的に、町は『保管庫』として以下の条件で国と調整の上、環境省の調査を受け入れています。 <ul style="list-style-type: none">・廃棄物 1kgあたり 10万ベクレルを上回らないこと。・廃棄物の受入は、基本的に町内で発生したものののみ。 また、町民への説明についても、国（環境省）に対し丁寧に行いうよう求めています。 保管庫については、構造的に中間貯蔵施設と同等の機能をもつしっかりとした構造とし、周辺の放射線の監視も行うよう、国に対して要請を行います。
21	70代	特になし	—	
22	60代	お世話になっております。 私は楳葉町が大好きです。家の近くは学校駅町も近くバイクで海、川、山と走り自然が好きでした。 今は孫達家族と離れ近くのアパートにお世話になります。長男は仕事を辞めてしまい医療の勉強してるみたいですが心配です。孫達二人は中学になり二本松の学校に入りお世話になります。 楳葉にはまだもどらないと思います。楳葉の家は屋根瓦が落ちたので雨漏りがひどく部屋中が黒カビ、タンス、フトン、畳が腐りネズミは増えて1人で片付が大変でした。バスと電車で通い遠いのでとても疲れました。それでも私は楳葉に帰りたいです。交通の便が広野からタクシーが高いのでお金がかかり不便です。 職人さん達も大変だと思います。大工さんもいないので私の家の中はカビがひどく早く直してほしいです。 家をきれいにして早く帰りたいです。犬でも飼いたいです。 宜しくお願い致します。	町は損害賠償に関する要望の意見集約に取り組む[第三章 1-4](3)(2)]ほか、住宅の再建・修理に向けた経済的支援[第三章 2-3](2)]や、被災者カルテをもとに生活再開に向けた情報提供・相談対応に取り組みます。[第三章 1-3](1)(4)] 損害賠償は区域指定解除後の打ち切りが懸念事項となっており、町は、財物補償も含め、国に強く要望しています。	
23	60代	—	—	
24	60代	① 6号国道の見直し	高速道路やバイパスを整備しても、やっぱり6号国道の早急の通過。 いわき方面の方々ばかりを対象にしているようです。北部の人たちはどうなるのか、だんだん年月が経ると、楳葉までは片道3時間半(好きで避難しているわけではありません)。高速道路は通れません。役所や業者ばかりでなく、6号国道の通過をとにかく早くしていただきたい。	国道6号整備については、県の「ふくしま道づくりプラン(復興計画対応版)」の中で「基幹的な道路」として、「県土連携軸・交流ネットワーク基盤強化プロジェクト対象路線」の一つとして、整備の計画的な推進が謳われていることから、町においても、計画推進を要望しています。

	近隣の町とのつながりは如何に	<p>楢葉は、富岡町に支えられて生きてきたと思います。富岡町が5～6年戻らないとすると、いちいちいわきまで行かなばなりません。「医、食、公共機関」どうなるのでしょうか。毎日、いわきまで医者通いは無理ですね。</p>	<p>町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導するほか、医療についても、介護福祉も含め先進的な地域医療の確立を目指します。[第三章 3-3)(1)～(2)]</p> <p>町役場、小中学校、地区集会所、公民館、消防団屯所などの公共・公益施設については、耐震性等の確認を行ながら、復旧を行います。[第三章 3-2)(3)①]</p>	
25	40代	<p>町民の意見を聞かず、勝手に準備区域にされるのは、町長、議長は勝手すぎる。もう少し町民の意見を聞いてほしい。15才未満の子供は、帰れないのに、いったい何をかんがえてるのかわからない。もしも楢葉に戻ったとしても子供は楢葉の学校に入れるきはありません。</p> <p>中間貯ぞうはどうなるのか？</p>	<p>帰町の判断時には、町政懇談会等で町民の意見をしっかりと聴きながら、判断を行います。</p> <p>放射性廃棄物の保管について、現在農地を仮置き場として用いている状況の解消を目的に、町は『保管庫』として以下の条件で国と調整の上、環境省の調査を受け入れています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物 1kgあたり 10万ベクレルを上回らないこと。 ・廃棄物の受入は、基本的に町内で発生したもののみ。 <p>また、町民への説明についても、国（環境省）に対し丁寧に行いうよう求めています。</p> <p>安定した暮らしを取り戻すため、町は失業・休業者への就労支援や雇用の場の創出などを通じ、安定した暮らしのための雇用や収入の確保に努めます。[第三章 2-6]</p> <p>特に、中核プロジェクトとして検討を行っているまちづくり会社の設立、モックアップ施設の誘致をはじめとする新たな産業の誘致・集積などにより、今後の雇用創出に結びつけていきます。</p> <p>町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導するほか、医療についても、介護福祉も含め先進的な地域医療の確立を目指します。[第三章 3-3)(1)～(2)]</p>	
26	60代	<p>特に該当ヶ所ないがしいて言うなら「安心して暮らせる環境を作り出す」に一言</p>	<p>町も本気だな。元の生活が甦えるよう力を合わせ、前進しようと計画をしている時、「不適切除染」「汚染水漏水」とか続々報道される毎日。これまでの信頼関係が薄れ、誰を信じて良いのか、不安ばかりが先になる。まずは信頼の構築が大切であり、いくら町が努力しても机上の空論と言われてしまう心配がある。</p> <p>早く原発事故収束宣言をしてほしい。</p>	<p>原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策をしっかりと行います。[第三章 5-1)]</p>
27	70代	<p>10頁の2 先づ安心して暮らせる環境を作る</p>	<p>平成25年4月楢葉町復興計画第二次（案）</p> <p>一度にあれもこれもとは思いませんが、除染する方も人の力です。本当に大変でしょう。一人一人のあの努力、私はあの姿を見ると頭が下ります。</p> <p>子達が安心して遊び学べるよう環境を作ること、急ぐ必要などありません。ゆっくりでも完全な仕事をしてもらいたい</p> <p>子供達が外で遊び学べる町にしてもらいたい。</p>	<p>町の除染は基本的に国の責任で行われますが、町としても本当に安心して暮らせる環境を取り戻すため、町独自で策定する除染計画をもとに、学校等の重点除染や除染の長期目標の達成などを要請していきます。[第三章 2-1)(1)～(2)]</p>
		8頁中核医療について	<p>町には今後放射線医療。健康と医療は付きものです。是非確保してもらいたい。</p> <p>少しづつでも良い出来ることを的確に実施して、安心につなげたら良いと思う。</p>	<p>健康と医療の確保について、当面は地元クリニックなどの1次医療を再構築するとともに、2次医療施設の誘致に取り組みます。[第二章 3-1)(2)①]</p>
28	70代	環境整備 除染・除染土	<p>東電が起こした爆発事故は東電社員の（慣れ）無責任の為の人災事故である事がテレビ、新聞等で報道でも誰が見てもわかる。私のような素人でも判った。福島第一原発建家内での作業、（悪口）で話すと出鱈目です。人の目や手を使わず機械任せではこれから廃炉には30～40年間もの間トラブルが多数続くのでは有りませんか。そのたびに不安になります。</p>	<p>原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策をしっかりと行います。[第三章 5-1)]</p>

		<p>復興-町民の帰還など言っておられますのが役人の方々は人の気持が分からぬわけではないでしょうが、もう一度考えてみるべきです。第一原発が完全にとは言わないまでも80%程度収束した後で除染すれば良いと思います。何故ならば原発建屋内での（白服）防護服など着身につけて作業が出来るようになってから20~30km圏内から除染を始めた方が良いのではないかと思います。この今のやり方では又トラブルが起きれば又除染の出発点に戻ってしまうと思います。もう2年もすぎており、焦らないで皆で安心し笑顔で帰還出来る事を望む。今の状態で戻れば子供、孫にも会う機会が薄れ、家族の絆が途切れ年寄りばかりになる（老人捨場になる）</p> <p>除染で出た土壌はテトラポットに詰めて海の沿岸に築けば良いと思います。除染作業で出た土は黒袋に入っているが、見た目が（悪魔）人の心をまよわす感がある。（ひじょうに不安になる）</p>	<p>町は帰町期の起点として、現在、国が計画している除染作業の完了が見込まれる平成26年4月を目途に、様々な観点から総合的に帰町判断を行います。</p> <p>帰町の判断時には、町政懇談会等で町民の意見をしっかりと聴きながら、判断を行います。</p>
29	40代	<p>もとどおりの生活にもどれないと安心して生活が出来ないからです。</p> <p>一日も早く復興をしてもらいたいです。</p>	<p>放射性廃棄物の保管について、現在農地を仮置き場として用いている状況の解消を目的に、町は『保管庫』として以下の条件で国と調整の上、環境省の調査を受け入れています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物 1kgあたり 10万ベクレルを上回らないこと。 ・廃棄物の受入は、基本的に町内で発生したもののみ。 <p>また、町民への説明についても、国（環境省）に対し丁寧に行うよう求めていきます。</p>
30	50代	<p>2 復興を目指す新たな土地利用 （3）健康のまち 檜葉 ②観光再生と健康・福祉の集積 ふるさと檜葉の原風景を確実に再生</p> <p>町の再生を考えるとき、町域の大半を占める森林エリアを今後どうするのかを考えなければならないと思う。</p> <p>当然、土地利用で考えれば、森林エリアは、除染やハード面の整備等の問題もあり、中々大変だと思うが、檜葉町で今後生活していく上で水資源の保全管理は重要なことであると思う。また、森林は町の貴重な地域資源でもある。</p> <p>このような観点から、森林エリアの利活用の記述に踏み込んでもらいたいし、記述の「原風景を確実に再生」は、現実には不可能だと思う。だとすれば、「原風景の再生に努める」といった努力目標でいいと思う。いずれにしても、当該計画は、画餅にならないように記述すべきであると思う。</p>	<p>町のインフラ（道路・鉄道・ライフルイン[上下水道・電力・ガス・通信等]）については、基本的に本格復興期が始まる平成26年春を目指した復旧を行ってまいります。[第三章2-2)(1)～(3)]</p> <p>町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導するほか、医療についても、介護福祉も含め先進的な地域医療の確立を目指します。[第三章3-3)(1)～(2)]</p>
	まちづくり会社 「ならは復興会社（仮称）プロジェクト	<p>当該プロジェクトは、あくまでも構想イメージだと思うが、担う業務が余りにも多岐にまたがっており、イメージとは言え、部門が多すぎると思う。</p> <p>案として、関連する部門を細分化し、もう少し組織をスリム化したほうが機能するのではないか。</p> <p>また、そのことによって、組織が複数かすれば、雇用の創出にもつながると思う。</p> <p>特に、農地の保全管理については、生産基盤に限らず、環境の保全にも関係することや、農家数や農地面積も相当数になることから、独立した組織で保全管理したほうが、円滑に機能するのではないか。</p>	<p>森林除染については、対策の方向性を含め、国が検討を行います。</p> <p>いただいたご意見を踏まえ、復興計画本編及び概要版の表現を「原風景を取り戻す」などのように修正します。</p>
	2 復興を目指す新たな土地利用 （3）健康のまち 檜葉 医療機能の整備	<p>医療機能の整備については、Jヴィレッジ周辺を中心とした位置づけているが、立地的に町の再以南に位置していることから、町民が利用する場合、位置的にどうなのかなという部分と、中核プロジェクト・2にある「スマートコミュニティとコンパクトなまちづくり」プロジェクトの診療・介護サービス機能との整合がとれていないように思う。</p> <p>そのところは、「Jヴィレッジ周辺」に限らず、「新たな街並み形成ゾーン」にも整備をしていくような記述をすべきではないでしょうか。</p> <p>そのほうが、医療機関の位置づけとして、町のほぼ中心になるため、町民の利便性や、公共交通の面からもいいのではないかでしょうか。</p> <p>※アンケート結果でも、帰還の条件として、医療機関の整備を望む方が多くいる。</p> <p>いずれにしても、先にも述べたように、「画餅」とならないような計画とし、現実味のあるしっかりとしたマスタープランにしていただきたい。</p>	<p>農地については、いただいたご意見を参考に、廃業による耕作放棄地や津波被災地の農地の集約化を行うとともに、新しい農業に取り組む中で農業復興組合を組織化し、農業者の意向を尊重しながら計画的に進めていくこととします。[第三章4-3)(3)]</p> <p>Jヴィレッジ周辺では救急・2次医療の高度な医療機能を提供するとともに、「当面確保すべき地域医療体制」の図に示しているように、日常的に利用する一時医療機能を提供する地元のクリニックなどの再生を図る予定です。[第二章3-1)(2)]</p>

31	定住人口促進の支援	<p>どこの項目に該当するかは分かりませんが、今の楢葉町は、震災・原発事故により、町自体が全てにおいてリセットされた状態だと思います。</p> <p>前向きに考えれば、今後町を復興・再生していくうえで、あらゆる可能性をしめていると思います。</p> <p>特に、新たな産業の育成や原子力に係る研究機関の誘致など、様々な分野において、プラス思考で考えれば色々な可能性をしめていると思われます。</p> <p>今後、町の人口をどうしていくかについては、帰町する人、町外に永住する人、様々ありますが、町の振興策や取り組みを推進していくためには、Iターンなども含めて、いかに定住人口を定着させていくかを検討しなければならないと思います。</p> <p>リセットされた楢葉町を、再生していくには、交流人口の拡大も必要ですが、楢葉町の応援団とも言える、町外からの定住人口をいかに増やすかも大事であると思います。</p> <p>それと、これまでの既成概念にとらわれないで、新たな発想で新しい風を呼び込む人材も当然必要になってくると思います。</p> <p>そこで、新たに町に定住を希望する人の支援策として、土地を取得（賃貸）するときや住宅を取得するときに、条件付きで、補助金を交付するとか、土地を無償で貸与するとか、町外から定住する人たちにとって魅力ある支援策を講じてはどうだろうか。</p>	<p>新たな街並み形成ゾーンにおいて、新たな産業に従事する従業員・研究者などや、双葉郡内他町村などしばらく元の場所へ戻ことができない区域から長期避難される方々の受け皿も整備していきます。[第二章 2-2)(1)②]</p> <p>定住を希望する方への支援策については、いただいたご意見を参考に検討を行います。</p>
32	40代 インフラについて	<p>道路の整備と復旧。上下水道の復旧。</p> <p>水も水質調査が必要。生活用水が一番大事なので各部落の代表者が見守り、伝える事が（各家庭に）必要である。</p>	<p>町のインフラ（道路・鉄道・ライフルイン[上下水道・電力・ガス・通信等]）については、基本的に本格復興期が始まる平成26年春を目指した復旧を行ってまいります。[第三章 2-2)(1)～(3)]</p> <p>上水道・水資源については、現在双葉水道企業団が週3回の検査を行っており、検出下限値以下であることを確認しています。この情報は、企業団のホームページで公開されており、町でもタブレット端末を活用して情報提供していきます。</p>
	今後の生活基盤	災害復興住宅を整備しないと次への生活ステップがのぞめない為（人によっては家をたてている人もいるが、それが出来ない家庭の事を考えてほしい。	<p>住宅の再建や修理に必要な資金の確保については、原子力災害による被害という観点も踏まえ、支援の実施を国・県に要望します。[第三章 2-3)(2)①]</p> <p>また、自宅再建が困難な世帯などに対し、災害公営住宅・町営住宅などの提供を通じた住環境の確保を行います。[第三章 2-3)(2)④]</p>
33	70代 第二章 2. 復興を目指す新たな土地利用 (1) 新しい住まいと街並み	<p>1. 街並みと駅舎の移転……木戸川を中心に常磐線の西側（または6号国道の西側）</p> <p>①津波被災地域からの移転者区域（先決）</p> <p>②宅地面積（永住を考慮）・最低100坪～150坪（地方人は土と空を希望）</p> <p>※楢葉町の先人を考えて欲しい。（先祖の土地、墓地を守っている）</p> <p>②居住区の区割りと放射線の確かな公表</p> <p>◎・地元区・商業区（商店）・医療区・公共関係（公園等）</p> <p>※木戸川をはさみ、楢葉町民以外にも、宣伝の要あり。但し、放射線量の「風評被害」の撲めつが必要。</p> <p>③木戸川流域の観光と「Jヴィレッジ」の復興</p> <p>◎サケのやな場と稚魚の放流……継続</p> <p>◎中高一貫教育の継続</p> <p>・サッカー・バドミントン</p> <p>④木戸駅舎の移転</p> <p>◎旧駅舎より小学校近くへの移転（街並み移転を考えた場合）</p> <p>・駅舎は、その地区の発展基本（竜田駅に近いが？）</p> <p>※楢葉町に愛着があり、一刻も早い帰還の実現を希望、意見の理由。（余世がない）</p>	<p>住宅を希望される方については、復旧方法や費用などの相談に対応するほか、きめ細かに要望を汲み取ります。</p> <p>なお防災集団移転事業では、国の制度の仕組み上100坪が上限です。</p> <p>居住区の区割りについては、復興推進計画により土地利用計画の方向性を検討しており、その結果をもとに、居住区割りなどの詳細な検討を引き続き行っています。</p> <p>町は詳細なモニタリングを継続的に実施し、結果はわかりやすく公表するほか、放射線の測定体制を整備し、いつでも誰でも線量測定ができるようにします。[第三章 2-4)]</p> <p>天神岬や木戸ダム、木戸川などは楢葉を象徴する原風景であり、大切な観光資源でもあるため、これらを再生し、将来の世代に伝えます。[第三章 2-2)(3)②]</p> <p>また、サッカーやバトミントン等の部活の継続については、いただいたご意見を参考に、高校誘致・中高一貫校化などの検討の中で、参考とさせていただきます。[第二章 2-2)(3)]</p> <p>竜田駅は新たな街並み形成ゾーンの近傍に位置していることから、これらを一体的に捉えて開発を進めています。一方、木戸駅については、多機能拠点整備を行うJヴィレッジとの連携を念頭にした計画づくりを行います。このように2つの駅にそれぞれの役割を持たせることで、町全体としての交通の便を確保していきます。</p>

	第三章 復興のための施 策	◎インフラ整備。 ◎除染終了。そしてライフラインの整備。 ・自宅の修復に予算の計上がり出来ない。 ※平成 26 年度が限度。 いわき市への転居が頭をかすめる。	町のインフラ（道路・鉄道・ライフライン[上下水道・電力・ガス・通信等]）については、基本的に本格復興期が始まる平成 26 年春を目指した復旧を行ってまいります。[第三章 2-2)(1)～(3)] 町は住宅の再建・修理に向けた経済的支援[第三章 2-3)(2)]や、被災者カルテをもとに生活再開に向けた情報提供・相談対応に取り組みます。[第三章 1-3)(1)④]
34	30代 原発に関して	新聞等で廃炉にする話がうやむやになってると書いてありました。もし、町民が戻ることになるなら、ハッキリとした結果を出して頂きたい。	福島県は、福島第一・第二原子力発電所 10 基全て廃炉の方針を示しております。町では、この県の方針の下、町民の皆様のご意見を踏まえて判断していきます。
35	70代	病院にかよっている為に町にリハビリをする病院や買い物をする場所がないと困るので 1 人ぐらしの人は大変なことです。	町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導するほか、医療についても、介護福祉も含め先進的な地域医療の確立を目指します。[第三章 3-3)(1)～(2)]
36	30代	特にありません。	—
37	40代	特になし	—
38	20代 インフラ復旧に ついて	鉄道・バスの運行再開など平日しか走行しないと話していたが、土・日・祝は運行しないと高齢の人が車持参してない人は、すごく不便だと思う。	避難先であるいわき市から楓葉町への公共交通については、復興支援バスが運行されています。 また、帰町に向けて、鉄道やバス事業者に対して復旧・復興を要請します。[第三章 2-2)(1)]
39	70代	住宅が地震により半壊したので災害公営住宅が出来ましたらぜひ入居出来る事をお願い致します。（一人ぐらしの高齢者なので）	住宅の再建や修理に必要な資金の確保については、原子力災害による被害という観点も踏まえ、支援の実施を国・県に要望します。[第三章 2-3)(2)①] また、自宅再建が困難な世帯などに対し、災害公営住宅・町営住宅などの提供を通じた住環境の確保を行います。[第三章 2-3)(2)④]
40	70代	地震津波原子力災害と長引く避難生活を 1 日でも早く乗り越し、楓葉町に戻るために仮置場の早い設置と除染、インフラの復旧をお願する所です。水道を使用しても最末端の排水ができていない。 商店、病院、各事業が戻れる安心して生活のできる環境に早く戻してもらいたい。	町のインフラ（道路・鉄道・ライフライン[上下水道・電力・ガス・通信等]）については、基本的に本格復興期が始まる平成 26 年春を目指した復旧を行ってまいります。[第三章 2-2)(1)～(3)] 町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導するほか、医療についても、介護福祉も含め先進的な地域医療の確立を目指します。[第三章 3-3)(1)～(2)]
41	60代	私は高年令の母、現在 9*才の二人で田舎で生活をしてました。千葉県におせわいただいています。（現在） 母も田舎での生活とくらべて、口には出しませんがさみしくいつも涙をうかべて、田舎はどうなってしまったのかときかれます！！ 原発の事故は、一生、国をうらみ、東電をうらんでやみません。何もしていない人にふるさとを取りあげたのです。これから復興計画に力を入れる方に力を出して下さい。	今後、復興計画に記載した施策等を積極的に推進し、復興に向けて取り組んでいきます。
42	(1) 新しい住まいと街並み	コンパクトなまちづくり 6 号から天神岬まで四車線化（将来街の中心地に成る様にして木戸駅、竜田駅を無くし（人口減のため）天神駅か楓葉駅を新しい街並に作れば良いのではないか。	天神岬と国道 6 号を繋ぐ中満天神岬線はコンパクトなまちづくりの核となる「新たな街並み」の一部として、賑わいのあるまちづくりを行います。 竜田駅は新たな街並み形成ゾーンの近傍に位置していることから、これらを一体的に捉えて開発を進めていきます。一方、木戸駅については、多機能拠点整備を行う J ヴィレッジとの連携を念頭にした計画づくりを行います。このように 2 つの駅にそれぞれの役割を持たせることで、町全体としての交通の便を確保していきます。
	(3) 健康なまち 楓葉	埼玉に避難して感じるのは楓葉町の自然であり山、河、海、各施設です。こんなにすばらしい街に住んでいたのだと思います。この自然を生かし人を集めることが楓葉町の再生ではないか。人を集めることを一番に考え再生してもらいたい。 ・早く元の自然に成って欲しい	天神岬や木戸ダム、木戸川などは楓葉を象徴する原風景であり、大切な観光資源でもあるため、これらを再生し、将来的世代に伝えます。[第三章 2-2)(3)②]

43	60代	(1)新しい住まいと街並み ②新たな街並みの形成	中満天神岬線周辺、木戸川より北側は新たな檜葉町の住宅、医療、教育、スポーツ施設として線引きを見直し他地域からの居住希望者も含め国の復興予算で大規模にすすめてもらいたい。 中高一貫教育（新たな県立高校） 専門学校（新たな県立中核病院の設置） 工業団地の拡充（ナラハイインターチェンジのアクセス整備） 商業施設の整備 子供達が安心して遊べる遊園設置 (ミニハワイアンセンターのような) 海、川、山の安心して遊べるゾーンの確保 木戸ダム、天神岬温泉施設の拡充 檜葉駅の新設（天満天神岬線） 各種レジャー設備の充実 産業施設集積ゾーン大賛成、協力します。	いただいたご意見については、個別の施策を検討する中で検討を進めていきます。
44	70代	(9)檜葉町への帰還を判断するために必要な情報 その他　追加希望	JR 広野以北檜葉まで延長してほしい。 高齢のため車を持てず買物病院等の利用に不便のため特に身障者（視覚障害2級）のため困っています。現在JR広野まで所龍田で延伸を希望します。 無理の場合は、バス代行等を考えて頂ければ幸いです。 (乱筆です。御免なさい。全般に第1案に賛成です)	国及びJR東日本に対し、町民の帰町時期を見据えた計画的な常磐線の復旧について、檜葉町までの延伸を含め要請します。【第三章2-2】(1)(2) また、避難先であるいわき市から檜葉町への公共交通については、復興支援バスが運行されています。
45	50代	①原発事故について	①まだまだ収束ていません。東電のウソ報告や、トラブル・事故において連絡のおくれと！ 東電・国に対してまったく信用していません。	原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策をしっかりと行います。【第三章5-1】
		②帰町について	②今の現状を見るといつ帰町するか、わかりません。広野町・川内村はどうですか？ 若い人は戻らないと思いますね。もっと国・東電に責任をおわせるべきだ！私達が避難生活しているのを「バカ」にしている見たいだ！	町は各町民の事情に応じ、帰町期を設けて段階的な帰町を行うほか【第三章2-3】、帰町に向けて帰町計画を策定します。
		③復興について	③原発事故が安定・安心した。収束が第一です。インフラ設備・除染・働く場所の確保。 今後放射線に対する影響や、みんな先が見えず不安だ！尚ストレスも頂点ですね！ 「もっと国は支援する事を望む」	原発事故の収束について、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策などに万全を期するため、防災に関する教育訓練や、地域防災計画や避難計画の見直し、緊急時情報伝達手段の確立、消防体制の再構築などをを行い、災害に強い人と仕組みを作ります。【第三章5-1】 町のインフラ（道路・鉄道・ライフライン[上下水道・電力・ガス・通信等]）については、基本的に本格復興期が始まる平成26年春を目指した復旧を行ってまいります【第三章2-2】(1)～(3)。 雇用について、安定した暮らしを取り戻すため、町は失業・休業者への就労支援や雇用の場の創出などを通じ、安定した暮らしのための雇用や収入の確保に努めます。【第三章2-6】 特に、中核プロジェクトとして検討を行っているまちづくり会社の設立、モックアップ施設の誘致をはじめとする新たな産業の誘致・集積などにより、今後の雇用創出に結びつけていきます。
		④補償・賠償の拡大	④もっと拡大して安心して暮らせる町にしてほしい！	町は損害賠償に関する要望の意見集約に取り組みます【第三章1-4】(3)(2)。 損害賠償は区域指定解除後の打ち切りが懸念事項となっており、町は、財物補償も含め、国に強く要望していきます。

46	70代	<p>・関係者の皆様、日夜大変ご苦労様です。</p> <p>・町復興計画（第二次）案については異存はありません。ただし、これらを実現するには、2年が経過した今でも、原発の問題が不安である。</p> <p>①漏電による冷却システムの停止。</p> <p>②汚染水の漏れ。</p> <p>③除染作業の手抜き。 等々廃炉まで 40 年位と云われている中で、住民が帰還し、生活して行けるのか、不安はつきない。</p> <p>・政府は、年間 20 ミリシーベルトに放射線量を下げて、住民を帰還させようと、躍起になっているが、不安払拭がまず先でしよう。したがって、地元自治体を含めた監視体制の強化確立をすべきである。</p> <p>さらに、住民が帰還、生活していくには以北地方との人的・物的流通が重要であると思う。</p> <p>・常磐線（鉄道）、国道 6 号線の復旧と、高速道の延伸、鉄道の路線変更を含め、工法としては、…線量の高い地域は（透明なカプセル式、トンネル化）等の施工で通過する方法（素人のため可能化は不明）…これら実現に向けて関係地域及び県が一体となり国に対し強く働きかける必要があるものと思慮される。</p>	<p>原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策をしっかりと行います。[第三章 5-1)]</p> <p>ご意見を反映し、町として行う「除染作業の監視」を取組項目として新たに記載しました。[第三章 2-1)(1)②]</p> <p>楢葉町に町民が戻って生活する中では、利便性と安全・安心の双方の観点から、町内における交通を確保することが必要となります。そのため、コミュニティバスの導入など、町民の日常生活を支える交通手段について、検討を行います。[第三章 2-2) (1)]</p>	
47	70代	町への帰還について	<p>現状ではまだまだ住める状態ではない。</p> <p>全て元の町へ戻ってからいろいろ進めてはどうか。</p> <p>住民に不安と希望を与えていたがどんどん不安の方が大きくなつて行くこの頃</p> <p>町の議員の意見のやり取りは良いが中間でのいろいろの発表などあまり好ましくない。町民の意見も取り入れて欲しい。議員さんだけの町ではない。町民を忘れずに。</p>	<p>町の除染は基本的に国の責任で行われますが、町としても本当に安心して暮らせる環境を取り戻すため、町独自で策定する除染計画をもとに、学校等の重点除染や除染の長期目標の達成などを要請していきます。[第三章 2-1)(1)~(2)]</p> <p>また、帰郷の判断時には、町政懇談会等で町民の意見をしっかりと聴きながら、判断を行います。</p>
		東電の補償金について	<p>今回の請求を町によって金額が違っている。住めないという問題は一緒。いくら日帰りで帰れる町だとしても住めないとには変わりなし、又早急に補償金を出して欲しい。そうすれば個々の将来像が見出しやすいのでは。</p>	<p>町は損害賠償に関する要望の意見集約に取り組みます[第三章 1-4)(3)②]。</p> <p>損害賠償は区域指定解除後の打ち切りが懸念事項となっており、町は、財物補償も含め、国に強く要望していきます。</p>
		県外への住民の生活	<p>県内に住んでいると近くに町役場、相談所が近くにあるが県外にあるのはあるが日日が合わないとなかなか相談出来ずそのままになってしまう。福島まで行くのにも大変。仕事を休んで行くようになってしまう。</p>	<p>町の情報については、今年の 4 月に配付した「タブレット端末」などを用いながら、きめ細かく情報発信を行います。[第三章 1-4)(1)②]</p> <p>相談については、フリーダイヤルを設置しています（町のホームページで公表）。</p>
48	70代		<p>楢葉町を活性化させるためには人が集まる事業が大切で第二次案を進める様お願いします。</p> <p>遅いと住民が戻らないので早くお願いします。</p>	今後、復興計画に記載した施策等を積極的に推進し、復興に向けて取り組んでいきます。
49	70代	東電放射能の停止を	<p>東電の放射能をまず止めてからでないと復興計画などは絵に描いたもちになるのではないか。</p> <p>放射能を止めて安全に住民が避難先から戻って暮らせる様にすることが第一だ。しかし放射能も止められない状態での復興計画など何の役にも立たない。</p>	<p>原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策をしっかりと行います。[第三章 5-1)]</p> <p>今後、復興計画に記載した施策等を積極的に推進し、復興に向けて取り組んでいきます。</p>
		仮設住宅暮らし	<p>東電の御蔭で 5ヶ所も逃げた体力的に 80 才を過ぎてからの老人夫婦の引越はきつかった。</p> <p>仮設住宅は 200 戸あるがどこに知人が住んでいるのかさっぱりわからない。知人との交流も出来ない。仮設住宅のマップがあれば助かる。</p>	<p>震災による不安の解消のため、避難中の町民同士が集まる交流の機会を確保します。[第三章 1-2)(1)]</p>
			<p>東電の請求をいわき市まで行かず、近くの集会所で行ってほしい。行政が住民のためもっとしっかり対応してほしい。</p>	<p>ご提案の件については、町として体制を整え、いただいた意見を真摯に受け止めて対応を検討します。</p>
			<p>仮設暮らしで私達数名で今週 2 回のグランドゴルフをしており新人をかんげいして入ってもらい道具をかして増員している。数mぐらいしかないところでゴルフは会話と運動で大変よい。</p> <p>この様な事を行政で少々助成金を出して支援し、仮設住民の為に役立ててほしいです。</p>	<p>いただいたご意見を真摯に受け止め、今後の対応について検討します。</p>
50	60代			—

51	70代	除染とインフラの整備	<p>吾々が意見内容を申し上げると云われても何もタッチしていないものに意見といわれても答えは出で来ません。吾々高齢者は1日でも早く楓葉に帰りたい何しろ先がない当局でも同じ考えだと思いますが何しろ除染とインフラの整備を優先して整備出来次第明日にも帰りたい。高齢者の願は同じだろうと思う。町当局もこの考えは同じであろうと思いますが1日も早い復興を願いたい。</p> <p>高齢者の切なる願いである。</p> <p>町会議員様の活躍がさっぱり見えない町長さんの激励を願います。</p>	<p>今後、復興計画に記載した施策等を積極的に推進し、復興に向けて取り組んでいきます。</p>
52	70代		<p>家が半破だ（若い人は職も無し、小娘はもちろんの事帰りませんので老人1人7才妾です）。</p> <p>どうすれば良いのかと路頭に迷って居ます。</p> <p>仮設では死にたく有りません。</p> <p>家に帰りたいです。</p>	<p>町は損害賠償に関する要望の意見集約に取り組む[第三章1-4)(3)②]ほか、住宅の再建・修理に向けた経済的支援[第三章2-3)(2)]や、被災者カルテをもとに生活再開に向けた情報提供・相談対応に取り組みます。[第三章1-3)(1)④]</p> <p>損害賠償は区域指定解除後の打ち切りが懸念事項となっており、町は、財物補償も含め、国に強く要望していきます。</p>
53	70代		<p>現時点では判断出きないがふるさと楓葉の風景、天神岬確実に再生してほしい。</p> <p>楓葉町は大好き安全安心生活環境整備事業を希望する。</p> <p>私は家が古いため町家住宅を希望する。</p> <p>原発はいらない。</p> <p>早く元の楓葉町を作つていただきいと思います。</p>	<p>天神岬や木戸ダム、木戸川などは楓葉を象徴する原風景であり、大切な観光資源でもあるため、これらを再生し、将来の世代に伝えます。[第三章2-2)(3)②]</p> <p>町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導するほか、医療についても、介護福祉も含め先進的な地域医療の確立を目指します。[第三章3-3)(1)～(2)]</p> <p>自宅再建が困難な世帯などに対し、災害公営住宅・町営住宅などの提供を通じた住環境の確保を行います。[第三章2-3)(2)④]</p>
54	60代	個人事業及び農業	<p>現在第一原発でトラブル続きで今後ますますトラブルが出て来ると思われます。現在の状況を見てますと手のほどこし様が見つかから無いように感じます。こんな状態で楓葉町に若い人達も含めて戻るのは数十年無理に考えますがどうですか？</p> <p>現在自宅の廻り除せんも済んでますが今このごろは除せん前の放射線量に戻ってしまって居るようです。</p> <p>このような状態が続いている現在では楓葉町に帰る事等は考えられません。</p>	<p>原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策をしっかりと行います。[第三章5-1)]</p> <p>町の除染は基本的に国の責任で行われますが、町としても本当に安心して暮らせる環境を取り戻すため、町独自で策定する除染計画をもとに、学校等の重点除染や除染の長期目標の達成などを要請していきます。[第三章2-1)(1)～(2)]</p>
55	30代		<p>楓葉町復興計画〈第二次〉(案)の概要を確認したが、とても分かりづらく記載している。特に敬老の住民には理解しにくいと思う。</p> <p>文書ではなく、もっと沢山説明会を行い、直接住民の意見を聞く、役場が主体となって行動しなければ、将来住民は元の楓葉町に戻らないのではないかと考える。</p> <p>住民が戻るために必要なのは</p> <p>①楓葉町付近、又は、楓葉町に大きな店（日用品、食糧品）がなければ、住民は絶対に戻らない。</p> <p>②現在休部している消防団を復活して、楓葉町のパトロール、除染関係の応援をさせて行く。</p> <p>③楓葉町の区域を早急に通常の状態に戻し、強制的に戻させるよう役員の力を育成させる。（役員の考えがあまえすぎ、考えがあますぎ）</p> <p>④公共施設、公園等を早急に除染して、復活させる。</p> <p>⑤楓葉町のPRが外部で出していなすぎ。</p> <p>以上</p>	<p>計画の表現につきましては、どなたにも理解していただけるよう、できるかぎり分かりやすい表現に努めます。</p> <p>町民の皆様には、町政懇談会等の機会を活用し、説明を行います。</p> <p>町で便利に暮らせる生活環境整備に向けて、商店などを利便性の高い場所に集約されるよう誘導するほか、医療についても、介護福祉も含め先進的な地域医療の確立を目指します。[第三章3-3)(1)～(2)]</p> <p>消防団については、消防団員の所在を確認し、帰町意向を確かめながら体制の再構築を図ります。[第三章5-1)(2)②]</p> <p>町の除染は基本的に国の責任で行われますが、町としても本当に安心して暮らせる環境を取り戻すため、町独自で策定する除染計画をもとに、学校等の重点除染や除染の長期目標の達成などを要請していきます。[第三章2-1)(1)～(2)]</p> <p>いただいたPRのご意見について、広報の検討の中で、今後の参考とさせていただきます。</p>

56	70代	<p>家を修理しても駄目なので全部こわすしかないです。</p> <p>ですから帰っても住む所が無いので、復興住宅が出来たら住ませて頂けないでしようか枚でも何かと大変でしようがお願いします。</p> <p>乱筆で申訳有りません。</p>	<p>自宅再建が困難な世帯などに対し、災害公営住宅・町営住宅などの提供を通じた住環境の確保を行います。[第三章 2-3)(2④)]</p>
57	60代	全体の歩み	<p>帰町開始時期について</p> <p>住宅の項目と関連すると思いますが、各個人の住宅の痛みが想像以上にひどく思われます。それらの補修に相当な時間を要し、帰町期の幅を持たせるべきかと。</p>
		住宅まちの再建	<p>災害公営住宅について</p> <p>アンケート等で入居希望者を把握し、入居可能になれば、どれくらいの人が帰町するのか、検討材にすべきかと。住居の問題で帰町に悩む人も相当いるはず。</p>
58	70代	復興計画そのものの工程、期日	<p>我が檜葉町だけでの計画でなく、双葉郡全て、全県との関連を考えた計画に見えない。</p> <p>計画と除染の進み具合、計画や完了の見通しのない部分、山、川、ため池、ダム、杉林の除染は？見た目にキレイでは、人は住めない。マスクや防護服着て子供達や若者は帰りません。帰りたい、帰れない、帰る、帰らないの議論があるうちは戻れません。普通の生活が出来ない所に戻りません。</p> <p>まず、第一原子力（発）の事故が終っていない現状、廃炉が決定して無いメルトダウンした炉から燃料を取り出す方法、期日すら決つてない。今だ同じ事故が発生しない（100%）状況や計画が進んで居ない。</p> <p>復興計画と安全確保の工程を重ね合せて線引きをして安全と安心が見えない限り、進んで町民は戻れません。</p> <p>第1に廃炉の確認をして、第21～4、第1.5～6の燃料を移動してから（する事を前定として）中間貯蔵（永久貯蔵）の方法と場所、その後の利用方法も考える、これと双葉郡、檜葉町も工程を組めると思います。</p> <p>若い人の為に、あせらず、あわてず、私も老人は道を造ってく意見を言う時間しか無いのです。</p>
59	不明		<p>①放射能に汚染され、今後農地として利用する予定のない農地等に、太陽光発電所の建設が可能な特例法の制定</p> <p>②被災地の真の復興のために、その町の被災者が優先して事業を行える条令等の制定</p> <p>③放射能汚染地域に太陽光発電所を建設するに当たり、優位な行政指導が受けられる特例法又は条令等の制定</p>
60	50代		<p>今、檜葉町が誘致を進めている除染、廃炉の研究施設などですが自分が檜葉町に戻って通常の生活を始めたときに回りに原子力発電所の関連施設があるのはあまり気持ちのよい感じはしないので、作らないでいただきたい。</p> <p>これから除染がうまくいって線量が下がっても若い人が生活するのは難しいと思うので、ある程度年配の人でも働ける介護施設とか定年後の生活を提案すればある程度の人口を確保できると思うが檜葉町が単独で成立するのは難しいと思う。</p> <p>とにかく今は安全、安心な環境をどこまで作れるかにかかっていると思う。</p> <p>それが出来ないうちは未来のことは夢物語にしかすぎない。</p> <p>現在の環境省の考えでは除染も2年で終了し後は知らん顔になってしまうような気がしてならない。</p> <p>そなならないためにも檜葉町として除染や安全、安心な環境づくりを最優先に考えて実行していただきたい。</p>

		<p>第二原発の廃炉を早急に進める事。</p> <p>最近の第一原発のトラブルを見るにつけ東京電力のいい加減さにはあきれてものが言えません。</p> <p>楢葉町の復興計画には間違っても東電OBの意見など取り入れないようお願いいたします。</p>	<p>福島県は、福島第一・第二原子力発電所10基全て廃炉の方針を示しております。町では、この県の方針の下、町民の皆様のご意見を踏まえて判断していきます。</p> <p>原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策をしっかりと行います。[第三章 5-1)]</p>
61	40代	<p>地域にとっての最悪のシナリオは、双葉郡や南相馬に「使用済み核燃料の最終処分場」を建設されてしまう事だと思います。</p> <p>放射性物質の汚染によって、汚れてしまったことを利用され、こんな施設が作られてしまえば、未来永劫、故郷を取り戻すことが不可能になり、嘘の復興になってしまいます。</p> <p>IAEAの原子力研究所などの施設建設は、この最悪のシナリオに筋道を付ける前段階だと推測されますので、</p> <p>こういった計画に絡め取られない事を、復興計画の大前提として考えて欲しいと切に願います。</p> <p>この2年間の避難生活で、復興に「ウルトラC」が無い事は、町民全員が認識していると思います。</p> <p>施設規模や金額の大きさに騙されそうになった時には、福島第一原発の廃炉には、最低40年掛かる事を、思い出して下さい。</p> <p>40年の戦いに勝者はいませんし、決着をつけるのは、「次世代です」。「次世代」の事を考え、嘘に絡め取られない「一歩一歩の復興」を、お願いします。</p> <p>環境の回復を考えると、福島県の約70%を占める山林の除染と木戸ダムの底に溜まっているであろう放射性物質田畠の土壌汚染の問題が浮かびます。</p> <p>工業団地に、汚染された木材を「ウッドチップ」に加工する生産工場を建設し、その燃料を、全国の火力発電所を所有する会社や自治体に販売する事業を、提案します。</p> <p>汚染された「杉材」などが原料となりますので、火力発電所には「放射能除去フィルター」が必要になり、販売相手が、原子力発電所の再稼働を、勧めたい電力会社ですから、簡単に物事は進まないかもしれませんのが、筋道がたてば、年月は掛かるものの、伐採した「杉の木」の代わりに「ブナの木」などの植物を植えれば、本当の山林の再生にもなりますし、本当の除染にもなります。</p> <p>木戸ダムに関しては、技術的に可能なのか全く解りませんが、ダム底に溜っている放射性物質の除去とともに水力発電所化が出来ないかと、考えます。</p> <p>ダム底の放射性物質は、取り除けなければ、長期間、木戸川の環境問題を、抱え込む事になると思います。</p> <p>田畠に関しては、現時点でも原発から、放射性物質が出続けている事考えれば、畜産農家に堆肥の生産をお願いし数年かけて、土の入れ替えをした方が、安易に「ゼオライト」を撒くよりも、良いのでは? と思います。ゼオライトを撒くことは、田畠の放射性物質を残すことながら。</p> <p>雇用が無ければ、復興は進まないと思いますが、エネルギー関係で言えば、上記した「ウッドチップ工場」以外でも、「太陽光パネル工場」等の再生可能エネルギーで、復興を進めて欲しいと思います。</p> <p>*この2年間の間、大手メディアの報道は、被災者に寄り添っているように見せかけながら、被災者の現実から、論点の角度や時間軸を変えて、報道されていると感じます。このような報道に、楢葉町町民を含め、被災者全員が傷ついていると思います。AMラジオ(文化放送など)を、聞いていますと、テレビのニュース番組の報道と180度違う、コメントや報道がされています。</p> <p>そこで、楢葉町に双葉郡・南相馬全体に、ラジオがクリアに聞けるように、ラジオの中継アンテナを、建設してもらえないでしょうか?</p> <p>中立な報道は、復興には欠かせないものであると思いますし、被災者の気持ちも救われると思います。</p>	<p>放射性廃棄物の保管について、現在農地を仮置き場として用いている状況の解消を目的に、町は『保管庫』として以下の条件で国と調整の上、環境省の調査を受け入れています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物 1kgあたり 10万ベクレルを上回らないこと。 ・廃棄物の受入は、基本的に町内で発生したもののみ。 <p>町の意思として、町が受け入れるのは保管庫までというスタンスを貫くべく、国に強く要請を続けます。</p> <p>町の除染は基本的に国の責任で行われますが、町としても本当に安心して暮らせる環境を取り戻すため、町独自で策定する除染計画をもとに、学校等の重点除染や除染の長期目標の達成などを要請していきます。[第三章 2-1)(1)~(2)]</p> <p>山林除染については、現在有効な方策がないことから、次善の策として放射性物質を含む土砂等の流出や風倒木発生の抑制に向けた国や関係機関の支援を要望していきます。[第三章 5-2)(3)①]</p> <p>木戸ダムの水力発電につきましては、今後、「環境配慮型のまちづくり」などの検討の中で、いただいたご意見を真摯に受け止め、今後の「環境配慮型のまちづくり」の参考とさせていただきます。[第二章 3-1)(2)③]</p> <p>田畠に関しては、県の農林地等除染基本方針に従い、土の反転耕とともにゼオライトの散布を行うことで対応を図る予定です。</p> <p>耕作放棄地などの広い農地を活用して、太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入に取り組みます。[第二章 2-2)(5)①]</p> <p>町の情報については、今年の4月に配付した「タブレット端末」などを用いながら、きめ細かく情報発信を行います。[第三章 1-4)(1)②]</p>

		<p>* 未だに、「飛行機が墜落する可能性があっても、移動手段として便利だからみなさん利用するでしょう」「便利なものにリスクは、つきものです」などと、真顔で言い、原発の「再稼働」を訴える人がいますが、乱暴な言い方かもしれません、「飛行機事故」は、乗員乗客の命が奪われ、機体が燃え尽き、壊れてしまえばその事故は、収束し終わります。ですが「原発事故」は、壊れ始めてから本当の被害が広がるのです！被害発生のメカニズムが、他の飛行機事故や交通事故と全く違うのです。</p> <p>ですから、統計や確立でリスクを測れるものではないのです！</p> <p>その事を、日本人の共通認識である、「無常観」の入り口の言葉、「形あるものは、いつかは壊れる」ということから、紐解いて下さい。人間に壊れない物など作れないことは、誰でも理解出来る事だと思います。</p> <p>東京電力が、新潟の原子力発電所を、再稼働すると、年間800億円、国からの借入金に返済できるそうです。その方法と、同じ理由で楢葉町にある第二原発の再稼働も、賠償金を駆け引きの道具に使いながら、交渉してくると思います。</p> <p>ですが、最低でも福島県の「脱原発・廃炉」が決まらなければ、本当の復興に向けての人々の気持ちが定まらなく、いつまでも「ざわついた」ままだと思います。そして、「ざわついた」気持ちのままでは、本当の復興が始まりすらしないと思います！</p> <p>どうか、「大きな疑惑」に絡め取られないで、自分達で「一步一步決めて行く」復興を、お願いします。</p>	<p>福島県は、福島第一・第二原子力発電所10基全て廃炉の方針を示しております。町では、この県の方針の下、町民の皆様のご意見を踏まえて判断していきます。</p> <p>原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策をしっかりと行います。[第三章 5-1)]</p>
62	60代	<p>楢葉町に帰りたい気持ちはあります。しかし、相次原発のトラブルを全国版のテレビで見ていると、先々の不安はつのるばかりです。国、県、町としては、町民の帰還に向かって整備や準備をしているのはわかりますが、今は町に帰ることに不安はあります。また、こづくばに来て2年、仕事にも恵まれ、地域の皆様にも恵まれ避難生活ながら今の生活に満足しています！</p> <p>全国のテレビニュースに、双葉郡内の首長さんが多くの出演をしていますが、わが町の町長はあまりでませんね。若い町長なので、もっと町を全国にアピールしてください。町長の顔が見えません。</p> <p>とにかく今の段階では、わが楢葉町に帰ることで、大きな不安があります。特に、除せん物の仮置き場等についても、いつまで仮置き場になるのか、おそらく福島県産と言うことで、敬遠されてしまう。</p>	<p>今後、復興計画に記載した施策等を積極的に推進し、復興に向けて取り組んでいきます。</p> <p>原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策をしっかりと行います。[第三章 5-1)]</p>
63	70代	<p>愚考を述べます。楢葉の復興に若干でも資するなら、可とする。</p> <p>①現況に至っては、何よりも早期除染 ②大規模機械化営農 北海道並み 会社組織とし地主を株主とし役員報酬 ③避難住民に一家族100坪の土地を提供し、賠償金による住宅建設を図る ④ショッピング医療機関の早期充実 ⑤営農困難となった広大な土地を確保し、工業団地の整備 太陽光発電事業、大規模野菜工場など 以上はすべて検討済みのことと思考するが、何事も有言不実行は貴重な時間の浪費となる。 ⑥当初思考した膨大なガレキの処理は何れ必要な防波堤に万里の長城を建設する 廃鉱となっている坑道の1000-2000メートルが、北海道から九州まで全国にある地元常磐にもある。これを活用する。ガレキの処理はほぼ片付きつつあると思うが、遅すぎる為、本格的復興に支障ありと思われ、地元住民は、避難先の生活に不満ながら、止む無く生活の根をはりつつあり、帰郷希望の減少は残念ながら、止む無しと思う。</p>	<p>いただいたPRのご意見について、広報の検討の中で、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>放射性廃棄物の保管について、現在農地を仮置き場として用いている状況の解消を目的に、町は『保管庫』として以下の条件で国と調整の上、環境省の調査を受け入れています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物 1kgあたり 10万ベクレルを上回らないこと。 ・廃棄物の受入は、基本的に町内で発生したもののみ。 <p>また、町民への説明についても、国（環境省）に対し丁寧に行うよう求めていきます。</p>
64	70代	<p>3.11の震災から2年1ヶ月が過ぎましたが、今私達のおかれている状況は、毎日が不安と体調の悪さで困っております。特に原発の情報を見ると先行きの安全が心配で帰る気になれないのが現状です。</p>	<p>原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策をしっかりと行います。[第三章 5-1)]</p>
65	80代	<p>福島第一原発に於いては、汚染洩れ度々心配されることが起っていますが、町民の方々も同じ考えと存じます。</p> <p>今後一段と、広く会議を持ち安全対策に「力」を入れて、いたたく存じます。</p>	<p>原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策をしっかりと行います。[第三章 5-1)]</p>

		<p>長引いております。避難生活、現在 6ヶ所目にて日々を送って居るのでございますが、少しでも早く帰町を第一に考えて居る次第で、先ず大地震により、蔵などでは、東側西側共、腰瓦づくりが 80%落下してしまったので、中の物は（家財）駄目でしよう。</p> <p>風呂も造り替える様ですし、まあどこもタイルの割れ落ち、母屋の壁落ち、亀裂入りとか、頭の中からはなれません。</p> <p>早く戻って、ご先祖様にの報告の出来ることを、町の復興計画を、よろしくお願ひ致します。</p>	<p>住宅の再建や修理に必要な資金の確保については、原子力災害による被害という観点も踏まえ、支援の実施を国・県に要望します。[第三章 2-3] (2)①]</p> <p>また、自宅再建が困難な世帯などに対し、災害公営住宅・町営住宅などの提供を通じた住環境の確保を行います。[第三章 2-3] (2)④]</p> <p>今後、復興計画に記載した施策等を積極的に推進し、復興に向けて取り組んでいきます。</p>
66	60代	<p>警戒区域の見直しがなされ、帰還に向け本格的な取り組みがなされている最中、事故から二年過ぎてもトラブルが相次ぎ収まる気配なく、今の現状では先が見えず、廃炉計画が場当たり的で、長期的な視点にたっておらず、東電と国が責任ある十分な対策を講じない限り、ふるさとの将来像が見えてこない。東電と国に今以上働きかけていただきたい。</p>	<p>原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策をしっかりと行います。[第三章 5-1)]</p>
67	30代	<p>【楢葉町民の一人としての意見】</p> <p>楢葉町に帰りたいと思いますが、小さい子供がいる為、子供を連れて楢葉で生活する気になれません。いくら除染をしたとしても、不安は解消されませんし、原発が近いため、万が一の事を考えると、生活の基盤を置きたいとは思いません。現に、停電による注水停止や手抜き除染など様々な問題がニュースで取り上げられています。又、インフラの復旧や学校・病院・商店など生活には欠かせないものが、果たして元の楢葉町の様に復旧するでしょうか？</p> <p>一時帰宅等で、町中を見渡せば、除線で出た汚染物を入れた黒い袋が至る所にあります。そんな状態で、町に帰りたいと思いません。以前、行った意向調査の結果を見ても、帰町を希望しているのは、50歳以上の方や高齢者ばかりが大半を占めているのが現状です。今後を担う若年層の方は、ほとん帰町しないと思います。理由として、「小さい子供がいる」「今後、子供をつくる予定がある」「放射線への不安」「インフラ等、生活基盤の不備」、などが考えられます。今の状態で、避難区域を解除しても、帰町するのは全町民の 1 割り程度の広野町のと同じ状況になるでしょう。広野町より、原発に近い楢葉町なのに、町民は帰町したいと思うでしょうか？そんなリスクを背負ってまで、避難区域を解除する意味はあるのでしょうか？と逆に質問したいです。</p> <p>又、私は、楢葉町の町営住宅に住んでおりましたが、もし H26 年 4 月に避難区域が解除され、帰町が可能になった時点で、家賃は発生するのでしょうか？</p> <p>現在、いわき市内の借り上げアパートで避難生活をしていますが、震災後、原発事故により、立ち入りが厳しく制限され、楢葉町への立ち入りが出来なかった期間もあり、新しく買い揃えた生活必需品もたくさんあります。楢葉町の町営住宅にも、もともとあった家財や生活物品がほとんどそのまま残っています。アパートに持つて行きたくても、アパートに置く場所も無く、楢葉の町営住宅に置いておくしかないからです。持ち家ならともかく、賃貸ですので・・・。今後の避難区域が解除され家賃が発生した場合、住んでいなくても家賃を支払っていかなければならなくなるのでしょうか？</p> <p>私を含め、同じ悩みを抱える人は、必ず居ると思います。</p> <p>解除するのは、簡単ですが、後々、様々な問題が出てくると思います。</p> <p>以上の事を踏まえ、私は、避難区域解除には反対です。</p>	<p>町の除染は基本的に国の責任で行われますが、町としても本当に安心して暮らせる環境を取り戻すため、町独自で策定する除染計画をもとに、学校等の重点除染や除染の長期目標の達成などを要請していきます。[第三章 2-1](1)~(2)]</p> <p>また、町のインフラ（道路・鉄道・ライフライン[上下水道・電力・ガス・通信等]）については、基本的に本格復興期が始まる平成 26 年春を目指した復旧を行ってまいります。[第三章 2-2](1)~(3)]</p> <p>放射性廃棄物の保管について、現在農地を仮置き場として用いている状況の解消を目的に、町は『保管庫』として以下の条件で国と調整の上、環境省の調査を受け入れています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物 1kgあたり 10 万ベクレルを上回らないこと。 ・廃棄物の受入は、基本的に町内で発生したものののみ。 <p>また、町民への説明についても、国（環境省）に対し丁寧に行いうよう求めています。</p> <p>町は帰町期の判断として、現在、国が計画している除染作業の完了が見込まれる平成 26 年 4 月を目途に、様々な観点から総合的に帰町判断を行います。</p> <p>避難指示解除後の町営住宅の取扱いについては、いただいたご意見も踏まえ、今後、慎重に検討していきます。</p>
68	70代	<p>※今回の復興計画（案）は、本当にすばらしいと思います。少しでも実現する為の努力は不可欠です。私達老人はともかく、いかに若い人達を帰還させるかを考えるのが一番だと思います。それには、雇用の確保だと考えます。中小企業の再生と、新規産業の取り組みに最大の支援をし、雇用に対するアプローチを加速させることだと私は思う。</p> <p>若い人達が就職のため帰還すれば、老人は当然一緒に帰還できるのでは。老人だけ帰っても、生活等は成り立たない。</p> <p>※私は、みなし住宅に住んでいるため、情報は公報のみ、隣近所の人の顔も見たことがありませんでしたが、今回タブレット端末が届き、情報の把握が出来るようになりました。ありがとうございました。</p>	<p>雇用について、安定した暮らしを取り戻すため、町は失業・休業者への就労支援や雇用の場の創出などを通じ、安定した暮らしのための雇用や収入の確保に努めます。[第三章 2-6)]</p> <p>特に、中核プロジェクトとして検討を行っているまちづくり会社の設立、モックアップ施設の誘致はじめとする新たな産業の誘致・集積などにより、今後の雇用創出に結びつけていきます。</p> <p>今後も町の情報については、配付した「タブレット端末」などを用いながら、きめ細かく情報発信を行います。[第三章 1-4](1)②]</p>

		<p>※私は、東電を信用出来なくなりました。突然の長時間停電や使用済み燃料プールの冷却不能、放射能の汚染水の漏出(海に流す)等々、又、賠償金に対する対応が不十分である。</p> <p>この様な状態では、帰還不可と思っております。</p>	<p>原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策をしっかりと行います。【第三章 5-1】</p>
69	30代	除染、インフラだけでなく、原子力発電所の安全もちゃんと判断基準に入れてほしい。	町は帰町期の起点として、現在、国が計画している除染作業の完了が見込まれる平成26年4月を目途に、原子力発電所の安全も考慮するほか、様々な観点から総合的に帰町判断を行います。
70	60代	<p>これから住民の動向についてですが、</p> <p>1.すぐにでも楢葉町に帰還したい方 (A グループ)</p> <p>2.帰還したいが、何らかの理由で、当分の間は帰還できないという方は、いわき市に住んでいただく。(B グループ)</p> <p>3.住民票を移して、他の場所に住みたいと考えている方 (C グループ)</p> <p>理由=父が色々な病気にかかり、その都度いわき市のたくさんの病院に、父の送迎をしています。</p> <p>楢葉町に帰っていわき市の病院に連れて行くのは、はっきり言って容易なことではありません。</p> <p>理由=楢葉町役場といわき出張所の2箇所のみで行政を執行するようにならないと、はっきりとした復興ビジョンが描けないような気がします。</p>	町では、さまざまな事情からやむを得ず帰町をしばらく見合わせる市民も、ずっと楢葉町民として暮らせるよう、特例的な措置の設定・延長を強く要望し、継続的に支援します。【第三章 1-4】
71	70代 避難解除の生活意向	<p>私達の年令から考えると、1日も早い帰宅の出来るようあせります。左の調査結果を踏まえて</p> <p>具体的に地味に、復興の過程を町民が理解し納得した希望のもてる古里つくりを期待します。</p>	今後復興を進めていく上では、町政懇談会等で町民の意見をしっかりと聴きながら、帰町などの判断を行います。
72	70代 第三章復興のための施策 緊急施策 2.1)	除染は、復興計画の最優先に位置付けるべきものと考えます。町民の多くは、放射線量に対して不安をもっていることは「住民意向調査」(速報版)10~11ページなどの結果によても明らかです。除染は国の事業であっても、任せきりにせず、町も積極的に関わってほしいと思います。除染の効果が上がらなければ、盛りだくさんなばら色計画の実現困難であると思います。	町の除染は基本的に国の責任で行われますが、町としても本当に安心して暮らせる環境を取り戻すため、町独自で策定する除染計画をもとに、学校等の重点除染や除染の長期目標の達成などを要請していきます。【第三章 2-1)(1)~(2)】
73	70代	<ul style="list-style-type: none"> ・楢葉町だけでは、どうにもできない。 ・汚染水の漏洩、放射能もれ、今までこれからも続くだろう。 ・トラブル絶えない・・・ ・東電、国(政府)、学者の隠蔽、国民にうそをついている ・本当に帰還できるのか? 双葉郡は死の街に化した <p>中間貯蔵施設はもとより、最終処分場まで国は考えていないのではないか。(どこの県も、国も受け入れるところはない)受け入れて国が責任を持って安全に管理する。</p> <p>国、東電は賠償もきちんとする。</p> <p>安心して生活できる代替地、住宅を無償で確保する。</p> <p>冷静に現実を考えると、やっぱり帰れない。</p> <p>町役場の方、御苦労様です。復興計画は理解できますが</p>	<p>原子力発電所の事故の収束については、今後とも国・事業者等に迅速かつ適確な対応を強く要望すると同時に、不測の事態に備えて町としても住民の避難対策をしっかりと行います。【第三章 5-1】</p> <p>放射性廃棄物の保管について、現在農地を仮置き場として用いている状況の解消を目的に、町は『保管庫』として以下の条件で国と調整の上、環境省の調査を受け入れています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物 1kgあたり 10万ベクレルを上回らないこと。 ・廃棄物の受入は、基本的に町内で発生したもののみ。 <p>また、町民への説明についても、国(環境省)に対し丁寧に行うよう求めていきます。</p> <p>町は損害賠償に関する要望の意見集約に取り組む【第三章 1-4)(3)②】ほか、住宅の再建・修理に向けた経済的支援【第三章 2-3)(2)】や、被災者カルテをもとに生活再開に向けた情報提供・相談対応に取り組みます。【第三章 1-3)(1)④】</p> <p>損害賠償は区域指定解除後の打ち切りが懸念事項となっており、町は、財物補償も含め、国に強く要望していきます。</p>
74	60代 楢葉町の再生	震災後、2年が経過しましたが、まだまだ復旧はおろか、除染も進んでいない状態です。町は復興計画を作成しておりますが、計画どおりに進むとは到底考えられません。何故なら、隣町広野の現状を見れば、一目瞭然と思います。避難解除から一年半経過してもまだ一割弱の人しか戻っていないのが現状です。楢葉町もこのことを念頭に進めるべきと考えます。	町は各町民の事情に応じ、帰町期を設けて段階的な帰町を行うほか【第三章 2-3】、帰町に向けて帰町計画を策定します。